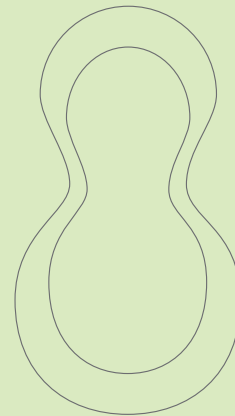
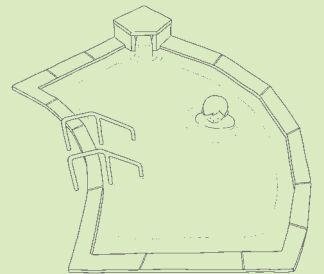
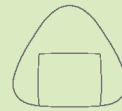
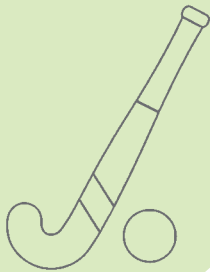


# 第6次川西町総合計画

わたしもあなたも満たされるまち  
— 共に感じ、共に創り、共に生きる —





## まちへの想い ～みらいを見据えて～

本町は、四季折々に表情を変える美しい田園風景とやさしく町を包み込む山々に囲まれ、豊かな自然に恵まれたまちです。日々の暮らしの中で、ふと周囲の風景に目を向けると心が和らぎ、「川西町はいい町だな」とあらためて感じる瞬間があります。豊かな自然環境に加え、この町に暮らす人と人との温かなつながりは、かけがえのないものです。こうした日常の中にある安らぎこそが、本町の大きな魅力であり、私たちの誇りです。

私は、町民の皆さまと行政が力を合わせ、この川西町を、これからも「住み続けたい」「関わり続けたい」と思えるまちとして、次の世代へ引き継いでいきたいと考えています。こうした本町ならではの魅力を守り、活かしながら、一人ひとりが互いを思いやり、支え合い、自分らしく暮らし、生きがいを感じられる、そんな暮らしが息づく、持続可能なまちを築いてまいります。

このような想いを胸に、本町の将来に向けたまちづくりの指針として、「第6次川西町総合計画」を策定しました。本計画では、町民一人ひとりの幸福度を高めることを最も重要な目標として掲げています。若者や女性をはじめ、多様な人々がそれぞれの立場で活躍できる社会を目指すとともに、医療・福祉サービスや教育など、地域の安定に欠かすことのできない機能を将来にわたり維持するため、限りある資源を効率的に活用し、「小さくても豊かな社会」の実現に取り組んでまいります。

「わたしもあなたも満たされるまち

～共に感じ、共に創り、共に生きる～」

本計画に掲げたこの将来像の実現に向けて、行政だけでなく、町民の皆さまと共に考え、共に行動しながら、まちづくりを進めてまいります。町民の皆さま一人ひとりの想いや行動が、川西町の未来につながっていくことを心から願っております。

令和 8 年 3 月

川西町長 茂 木 晶





# 目次

<b>I 策定にあたって</b> .....	<b>1</b>
1. 総合計画策定の趣旨と位置づけ .....	3
2. 踏まえるべき社会潮流と変化 .....	3
3. 計画の構成と期間 .....	5
■ 用語解説 .....	6
<b>II 川西町の姿と将来の見通し</b> .....	<b>7</b>
1. 人口 .....	9
2. 経済 .....	13
3. 財政 .....	16
■ 用語解説 .....	17
<b>III 町民の想い</b> .....	<b>19</b>
1. 町民アンケート .....	21
2. 未来づくりカフェ .....	27
■ 用語解説 .....	27
<b>IV まちづくりの基本理念</b> .....	<b>29</b>
<b>V 基本構想</b> .....	<b>33</b>
1. 目指す将来像 .....	35
2. 将来像を実現するための基本目標 .....	36
3. 目標達成指標 .....	41
■ 用語解説 .....	43
<b>VI 前期基本計画の推進にあたって</b> .....	<b>45</b>
1. SDGs（持続的な開発目標）の推進 .....	47
2. DXの推進 .....	49
3. 土地利用方針 .....	51
■ 用語解説 .....	53

<b>Ⅶ 前期基本計画</b> .....	<b>55</b>
1. 重点目標 .....	57
重点プロジェクト1. 未来を担う若者育成プロジェクト .....	59
重点プロジェクト2. 女性の未来共創プロジェクト .....	63
2. 基本目標 .....	67
基本目標1. 安心して快適に住み続けられるまちをつくります .....	69
基本目標2. 挑戦を支え、産業が発展し、稼げるまちをつくります .....	77
基本目標3. 共に支えあい、健康に暮らせるまちをつくります .....	83
基本目標4. 夢を育み、心豊かに学べるまちをつくります .....	87
基本目標5. 人を育て、未来につなげるまちをつくります .....	94
■ 用語解説 .....	100
<b>Ⅷ 人口推計</b> .....	<b>103</b>
1. はじめに .....	105
2. 推計方法 .....	105
3. 人口推計 .....	106
<b>資料編</b> .....	<b>107</b>
1. 策定協力者名簿 .....	109
2. 策定の経緯 .....	111



策定にあたって



## 1 総合計画策定の趣旨と位置づけ

総合計画は、長期的展望に立って川西町の目指すべき将来像と、その実現に向けた総合的かつ計画的なまちづくりを進めるために実施する施策や事業の体系と内容を示したものです。また、まちづくりにかかる各分野の個別計画や施策を策定する際の基本となるものです。

人口減少が進む社会において、高度化そして複雑化する地域課題に対応していくためには、町民と行政が互いに考え行動しながらまちづくりに取り組んでいくことが重要なことから、持続可能なまちづくりに向けて、町民とともに川西町を次世代につなぐ第6次川西町総合計画（以下「第6次総合計画」という。）を策定します。

なお、第6次総合計画は、「まち・ひと・しごと創生法」（平成26年法律第136号）第10条に規定する市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略としての性格を有するものとします。

## 2 踏まえるべき社会潮流と変化

我が国は、少子高齢化や人口減少が加速度的に進み、社会経済情勢や生活環境が大きく変化する時代を迎えています。また、世界はVUCA時代と呼ばれる将来の予測が困難な社会情勢の中で、国際情勢の不安定化と感染症の流行、物価高騰、気候変動による災害の激甚化、頻発化等、多様で複雑な課題が同時に進んでいます。

こうした中、川西町が今後まちづくりを進めるにあたっては、次のような社会潮流と変化を踏まえることが必要です。

### ◆人口減少・少子高齢化の進行

日本における人口は戦後急速に増加し、2008年（平成20年）に約1億2,800万人でピークを迎え、それ以降、少子高齢化の影響で減少しています。将来の年少人口及び生産年齢人口の推計値は、その数及び割合も減少し、2040年には人口が約1億1,284万人まで減少すると予測されています。65歳以上の高齢者の割合は、2040年には全人口の約35%となり、3人に1人を高齢者が占めると予測されています。

川西町は、この全国平均以上に人口減少、超高齢化が進行することが予測されており、労働力や地域活動の担い手の不足、経済規模の縮小、社会保障費の増大、税収の減少等が生じ、行政運営だけではなく、経済、生活、地域コミュニティ等、社会全体に様々な影響を及ぼすことが懸念されます。

### ◆デジタル社会の進展

AIやIoT、5G、クラウド等、デジタル技術の急速な進展により、社会のあらゆる分野でデジタル化が進んでいます。行政手続きや医療、教育、働き方、地域コミュニティ等、生活の基盤となる仕組みもデジタルを活用した新たな形へと変化しつつあります。

国は「デジタル田園都市国家構想」を掲げ、地方こそデジタルの力で課題を解決し、豊かな暮

らしと魅力ある地域づくりを進めることを目指しています。町内においても地域サービスの維持や利便性の向上、経済の活性化に向けデジタル技術の利活用が不可欠です。

### ◆気候変動への対応と脱炭素社会の実現

近年、地球規模での気候変動を背景とした異常気象や自然災害が全国的に頻発化、激甚化しており、川西町においても、2022年（令和4年）8月に豪雨災害が発生しました。

災害への第一義的な対応は市町村が担うことが原則です。本町では、激甚化、頻発化する自然災害から町民の生命と財産を守るため、防災・減災体制のさらなる強化を推進していく必要があります。

また、2015年（平成27年）に合意されたパリ協定に基づき、国は2050年にカーボンニュートラルを宣言しました。本町も令和2年度に「川西町ゼロカーボンシティ」宣言をし、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロの脱炭素社会を目指しており、この実現に向けた施策を講じていく必要があります。

### ◆ダイバーシティの推進

様々な価値観をもつ人々の人権や多様性を尊重し、一人ひとりが参画し、個性や能力を発揮することができる社会づくりが求められています。

日本全体で差別の解消や女性の活躍等に向けた法整備に加え、多様な人材を生かし、その能力が最大限に発揮できることで、暮らしや生きがい、そして地域を共に創っていくダイバーシティ社会の推進に向けた取組が進められています。

川西町においても、性別や年齢、国籍、障害の有無、性的指向を問わず、一人ひとりが尊重され、誰もが主体的に参画できるダイバーシティ社会を推進する必要があります。

### ◆ポストSDGsへの取組

「持続可能な開発目標」（SDGs）とは、2016年（平成28年）から2030年までの国際社会共通の目標です。持続可能な世界を実現するための17の国際目標、169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

SDGsは発展途上国のみならず、先進国も取り組むべきユニバーサル（普遍的）なものであり、川西町としても、今後の施策の企画から立案、そして実行の各プロセスにおいてSDGsの理念に配慮した施政運営に努めていく必要があります。また、2030年以降のポストSDGsへ向けた動向を踏まえた取組を推進する必要があります。

### 3 計画の構成と期間

第6次総合計画は、川西町が策定する各種計画の基本となる計画であり、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」で構成します。

#### 1 基本構想 <計画期間：10年>

基本構想は、川西町のまちづくりの目指す将来像と、これを実現するための基本目標を示すものであり、本町が目指すべき方向を明確にするものです。令和8年度（2026年度）から令和17年度（2035年度）までの10カ年計画とします。

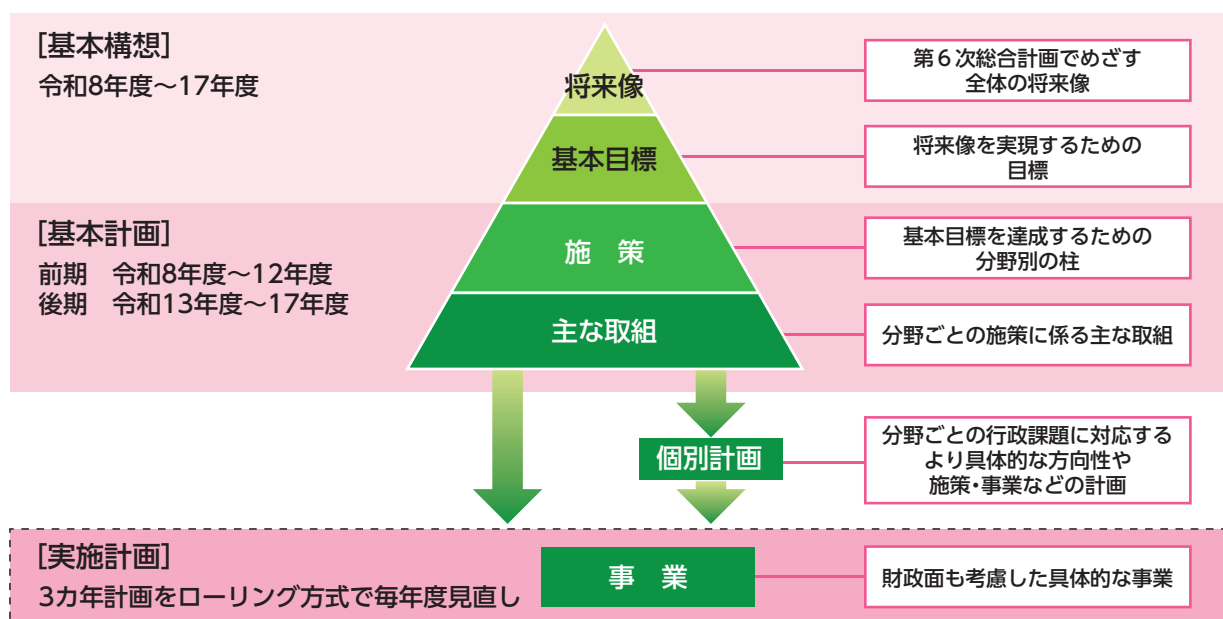
#### 2 基本計画 <計画期間：5年>

基本計画は、基本構想を具現化するために、基本目標の分野ごとに基本的施策を体系的に示すものです。本計画では、令和8年度（2026年度）から令和12年度（2030年度）の5カ年にわたる前期基本計画を示します。後期基本計画については、前期基本計画の進捗や社会情勢の変化を踏まえ、改めて策定することとします。

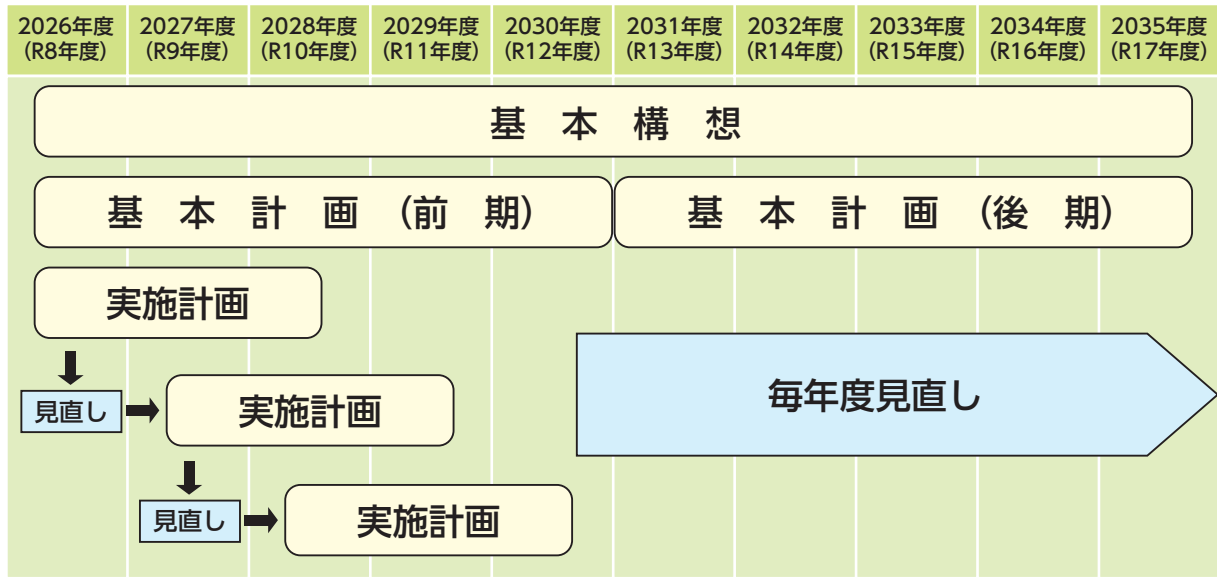
#### 3 実施計画 <計画期間：3年>

基本計画を実行していくための具体的な事業計画を示すものです。その時々行政需要を勘案し、3カ年を期間とした実施計画を別途策定し、毎年度、ローリング方式により見直しを図り、効果的な進行管理と事業推進を行います。

【第6次総合計画の構成イメージ】



【計画の構成と期間】



■用語解説

■ IoT（アイオーティー）

様々な「モノ」がインターネットに接続され、情報をやり取りする技術。

■ AI（エーアイ）

「人工知能」を意味し、一般的に、人間の言葉の理解や認識、推論などの知的行動をコンピュータに行わせる技術。

■ クラウド

インターネットを通じて、様々なサービスを「必要なタイミングで、必要な分だけ」利用できる形態。

■ ゼロカーボンシティ

再生可能エネルギーの利用やエネルギー効率の向上、植林等のCO<sub>2</sub>吸収活動を通じて、2050年までに二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量を実質ゼロにすることを目指す都市。

■ ダイバーシティ

性別、年齢、国籍、人種、宗教、障がいの有無、性的指向、価値観等、個人が持つさまざまな違いを尊重する考え方。

■ 5G（ファイブジー）

第5世代の移動通信システムで、高速、大容量、低遅延を実現する通信技術であり、自動運転、遠隔医療、IoT等を支える基盤技術。

■ VUCA（ブーカ）

不確実性や複雑性が増す現代社会やビジネス環境を説明するために用いられる概念。この用語は、以下の4つの英単語の頭文字を取って構成されている。

Volatility（変動性）：状況や環境の変化が激しく、先が読みづらいこと

Uncertainty（不確実性）：予測や計画を立てにくい、不確定な要素が多いこと

Complexity（複雑性）：多くの要因が複雑に絡み合い、単純に判断できないこと

Ambiguity（曖昧性）：正解が一つではなく、解釈が分かれる状態であること

II

川西町の姿と  
将来の見通し



# 1 人口

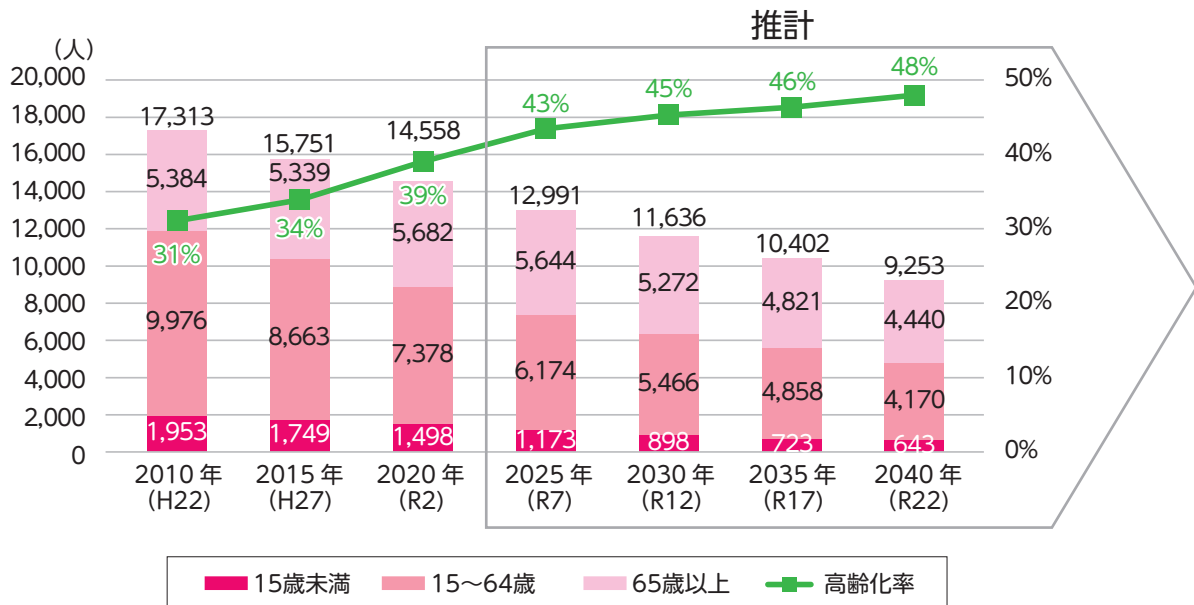
## (1) 人口の推移

川西町の総人口は、2020年（令和2年）現在 14,588 人で、減少傾向にあります。また、将来の見通しをみると、2040年には 10,000 人を下回ることが予想されます。

65歳以上の人口比率である高齢化率をみると、2020年（令和2年）現在で 39%であり、約3人に1人が高齢者となっています。高齢化率は今後も上昇を続け、2040年には 48%に達するものと予測されています。

2020（令和2年）と2040年を比較すると、年少人口は 57%が、生産年齢人口は 43%が減少するものと予測されています。

【町の総人口及び年齢3区分別人口の実績と推計】



資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所（令和5年推計）

### 【2020年（令和2年）と10年前との比較】

- 15歳未満人口 455人（23%）の減少 ▼
- 15~64歳人口 2,598人（26%）の減少 ▼
- 65歳以上人口 298人（6%）の増加 ▶

### 【2020年（令和2年）と10年後の比較】

- 15歳未満人口 600人（40%）の減少 ▼
- 15~64歳人口 1,912人（26%）の減少 ▼
- 65歳以上人口 410人（7%）の減少 ▼

I 策定にあたって

II 川西町の見通し

III 町民の思い

IV まちづくりの基本理念

V 基本構想

VI 前期基本計画の推進にあたって

VII 前期基本計画

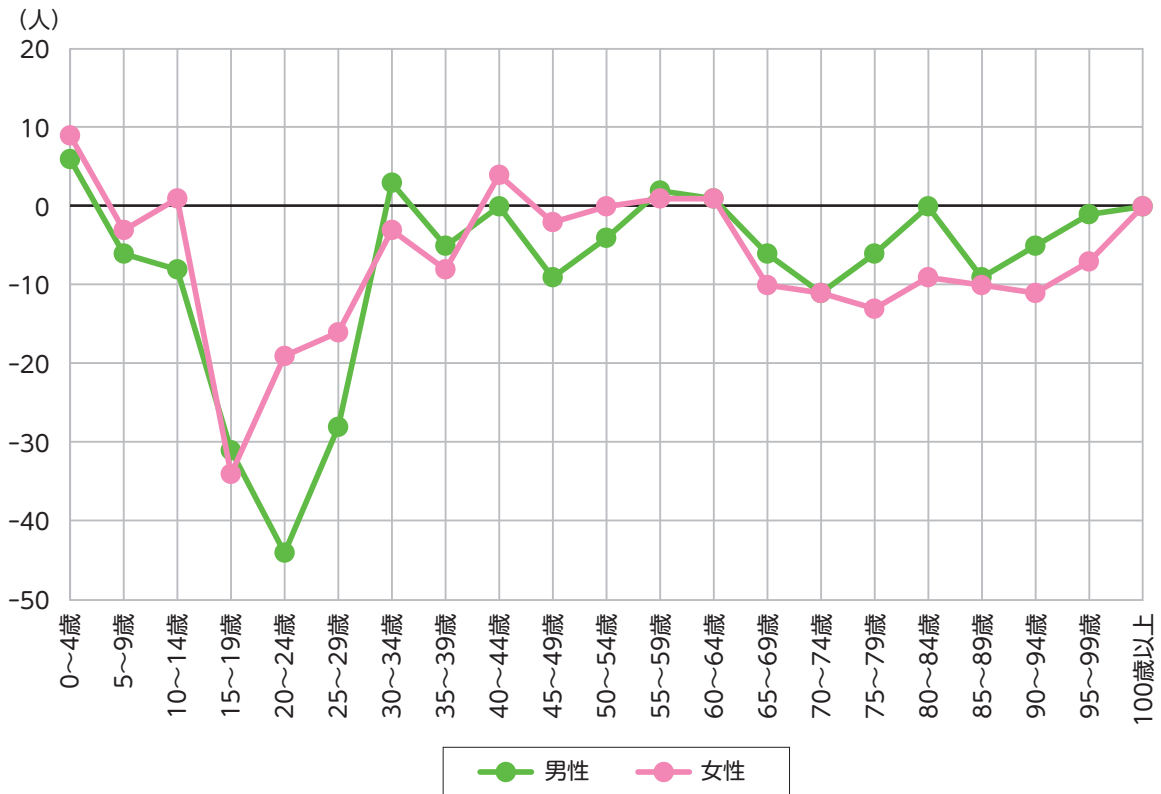
VIII 人口推計

## (2) 男女別・5歳階級別の社会増減

川西町の人口の社会増減を年齢別にみると、男女ともに進学や就職等、ライフステージに変化が生じやすい10代後半から20代後半にかけて、大きく転出超過となっております。

一部で社会増となっている年代もありますが、全体では社会減となっております。

【男女別5歳階級別社会増減（2022年度（令和4年度）～2024年度（令和6年度））】

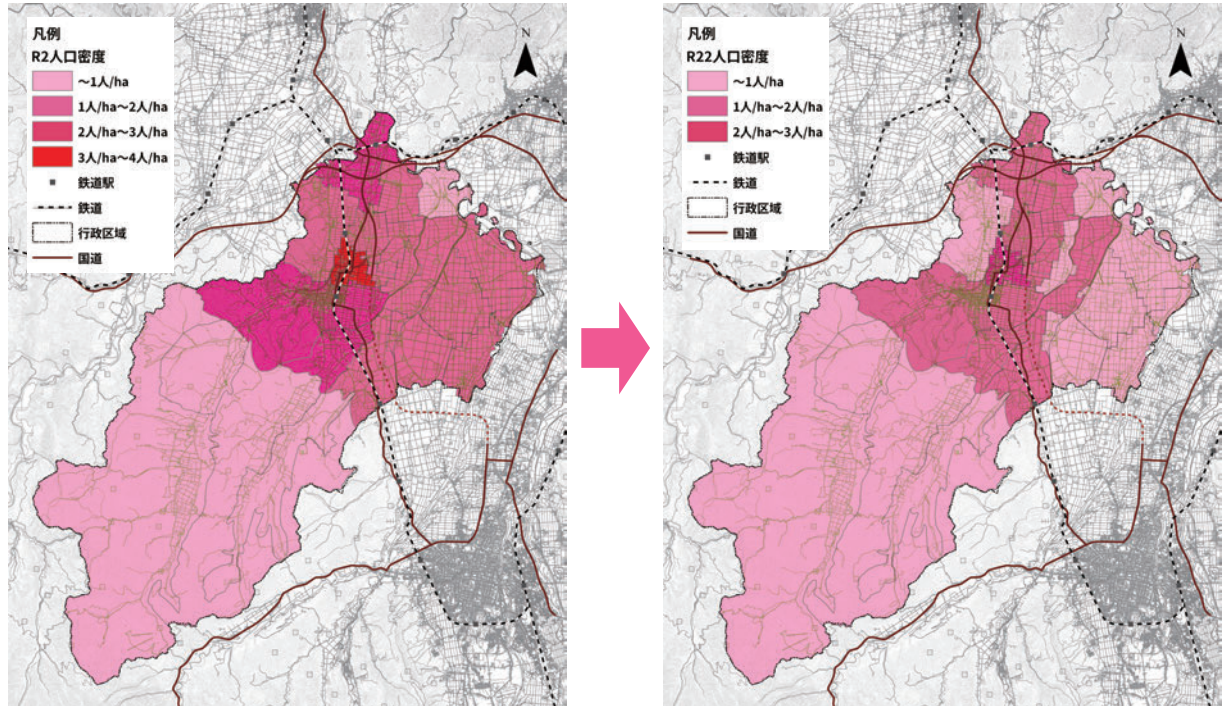


資料：住民基本台帳

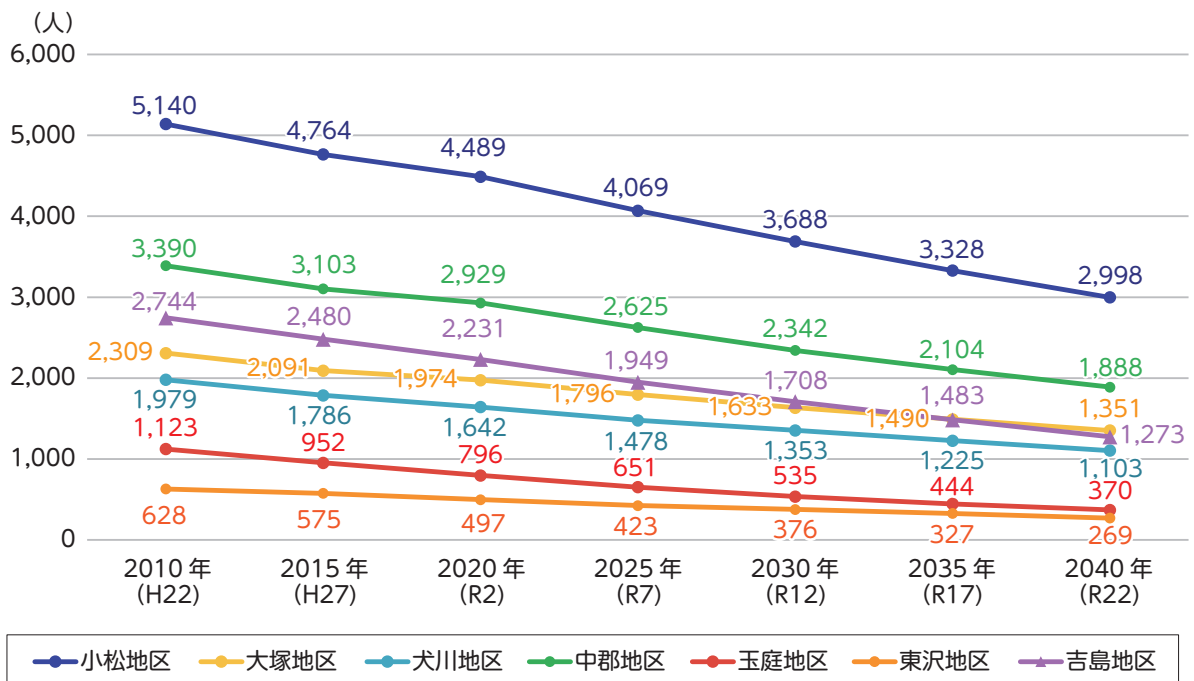
### (3) 地区別人口の推移

地区別人口の見通しをみると、全地区で人口の減少が予想され、特に、小松地区等の人口が集積する地区で急激な減少が予想されます。

【人口分布の現状と見通し】



【地区別の人口の見通し】



資料：将来人口・世帯予測ツールVer.2

	2020年（令和2年）と 10年前の比較	2020年（令和2年）と 10年後の比較
小松地区	651人（12.7%）の減少	801人（17.8%）の減少
大塚地区	335人（14.5%）の減少	341人（17.3%）の減少
犬川地区	337人（17.0%）の減少	289人（17.6%）の減少
中郡地区	461人（13.6%）の減少	587人（20.0%）の減少
玉庭地区	327人（29.1%）の減少	261人（32.8%）の減少
東沢地区	131人（20.9%）の減少	121人（24.3%）の減少
吉島地区	513人（18.7%）の減少	523人（23.4%）の減少
全地区	2,755人（15.9%）の減少	2,922人（20.1%）の減少

I 策定にあたって

II 川西町の姿と  
将来の見通し

III 町民の想い

IV まちづくりの  
基本理念

V 基本構想

VI 前期基本計画の  
推進にあたって

VII 前期基本計画

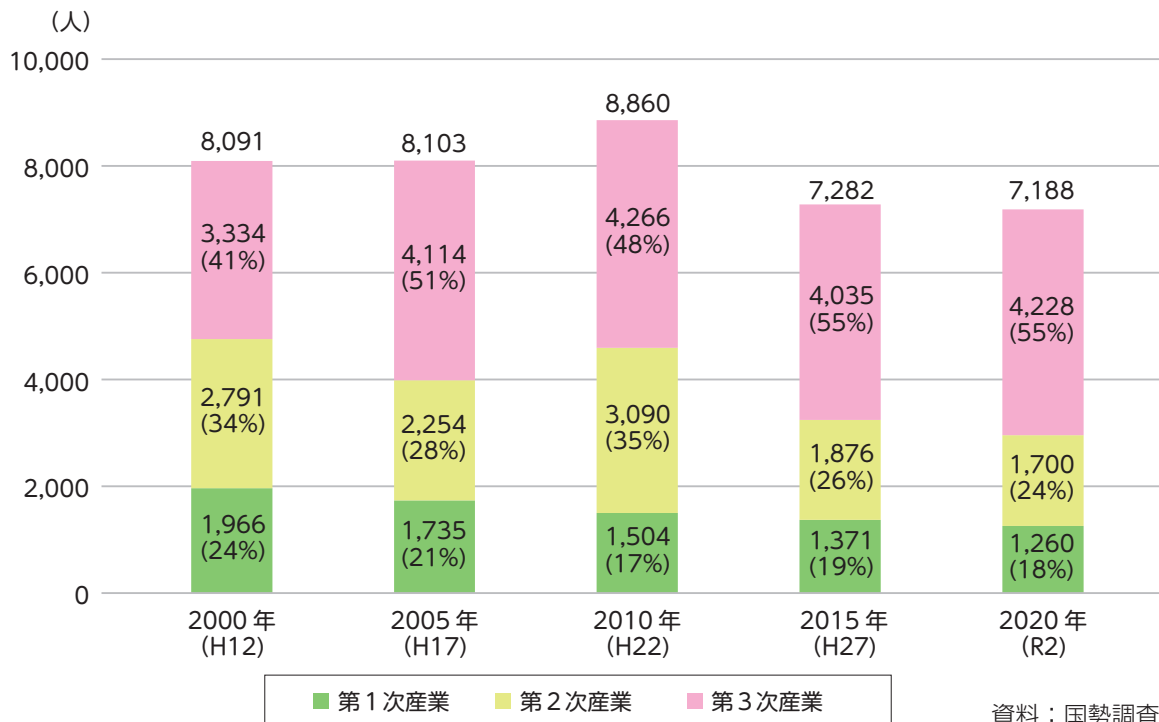
VIII 人口推計

## 2 経済

### (1) 従業者数・従業構造の推移

川西町で働いている産業3区分別の従業者数の推移をみると、2000年（平成12年）以降、第3次産業の占める割合が最も大きく、次いで第2次産業の占める割合が大きく、第1次産業の占める割合が最も小さい状況にあります。第1次産業の占める割合は減少傾向にありますが、第2次産業や第3次産業の占める割合は増減を繰り返しています。全体の従業員数は2010年（平成22年）以降減少傾向にあります。

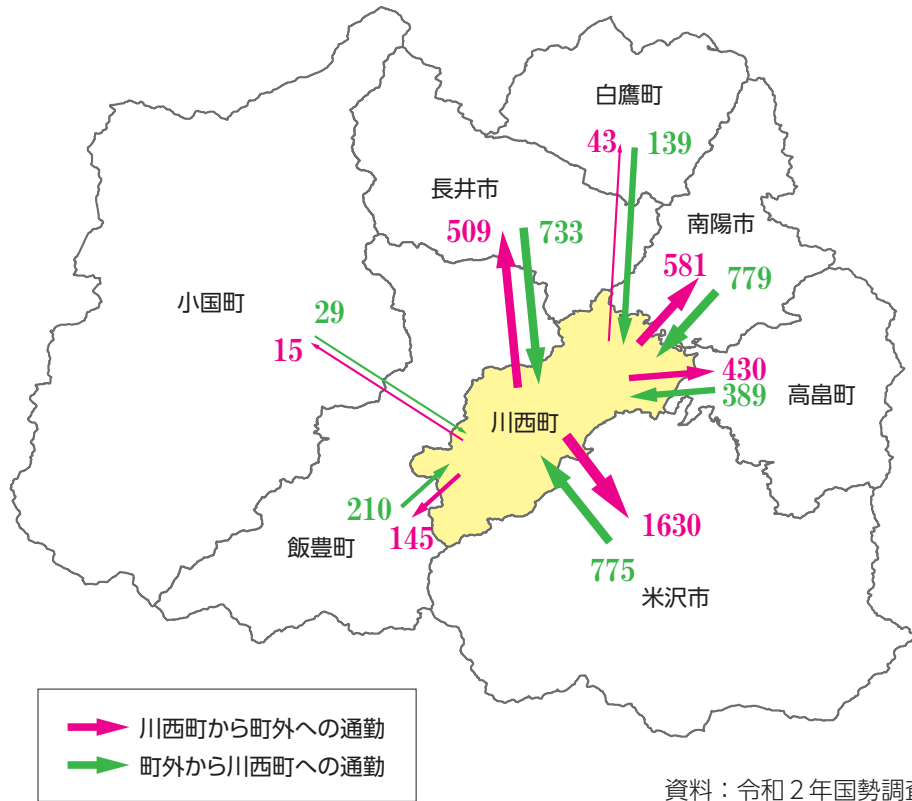
【川西町で働いている産業3区分別従業者数の推移】



#### 【2020年（令和2年）と10年前との比較】

第1次産業	244人 (16.2%) の減少	▼
第2次産業	1,390人 (45.0%) の減少	▼
第3次産業	38人 (0.9%) の減少	▼

【置賜地域内における通勤流動】

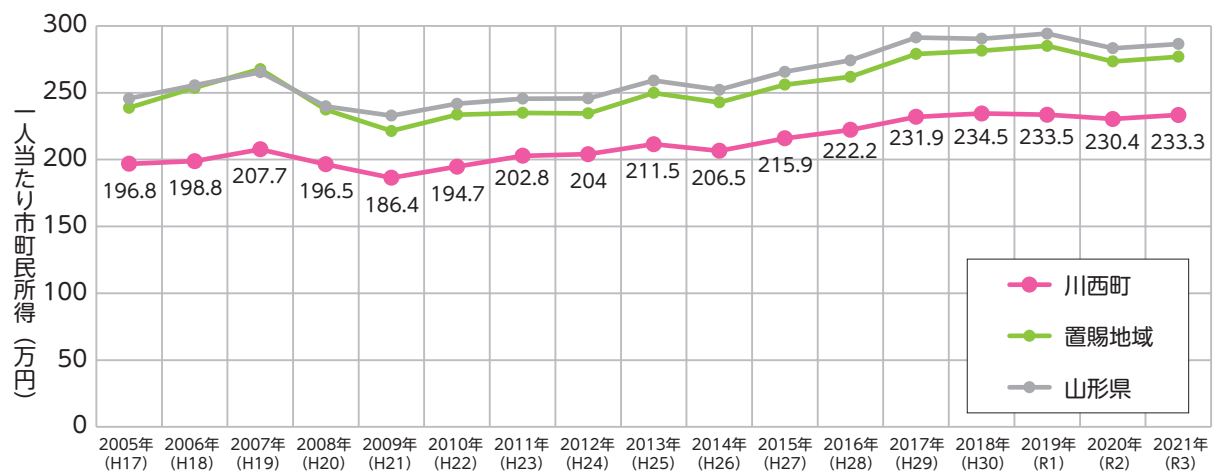


	通勤先											就業 者数	従業 者数	昼夜 間比			
	米沢市	長井市	南陽市	高島町	川西町	小国町	白鷹町	飯豊町	山形市	その他の 県内	県内				他県	不詳	
通勤先別 従業者数 (人)	米沢市	30,769	365	840	1,203	775	41	24	93	489	149	34,748	525	968	36,241	45,286	1.25
	長井市	524	7,266	534	132	733	107	840	761	249	114	11,260	80	362	11,702	14,215	1.21
	南陽市	1,861	751	7,071	1,156	779	29	99	183	681	415	13,025	102	129	13,256	14,432	1.09
	高島町	3,077	216	1,342	3,969	389	12	16	52	297	169	9,539	97	38	9,674	9,815	1.01
	川西町	1,630	509	581	430	3,917	15	43	145	103	52	7,425	62	80	7,567	7,247	0.96
	小国町	24	80	11	5	29	2,774	2	57	6	4	2,992	106	27	3,125	3,728	1.19
	白鷹町	123	1,381	115	25	139	15	3,012	119	391	168	5,488	31	25	5,544	5,498	0.99
	飯豊町	199	806	174	39	210	73	82	1,190	24	10	2,807	19	28	2,854	3,432	1.20
	置賜地域	38,207	11,374	10,668	6,959	6,971	3,066	4,118	2,600	2,240	1,081	87,284	1,022	1,657	89,963	103,653	1.15
通勤先別 従業者率 (%)	米沢市	84.9%	1.0%	2.3%	3.3%	2.1%	0.1%	0.1%	0.3%	1.3%	0.4%	95.9%	1.4%	2.7%	100.0%	-	-
	長井市	4.5%	62.1%	4.6%	1.1%	6.3%	0.9%	7.2%	6.5%	2.1%	1.0%	96.2%	0.7%	3.1%	100.0%	-	-
	南陽市	14.0%	5.7%	53.3%	8.7%	5.9%	0.2%	0.7%	1.4%	5.1%	3.1%	98.3%	0.8%	1.0%	100.0%	-	-
	高島町	31.8%	2.2%	13.9%	41.0%	4.0%	0.1%	0.2%	0.5%	3.1%	1.7%	98.6%	1.0%	0.4%	100.0%	-	-
	川西町	21.5%	6.7%	7.7%	5.7%	51.8%	0.2%	0.6%	1.9%	1.4%	0.7%	98.1%	0.8%	1.1%	100.0%	-	-
	小国町	0.8%	2.6%	0.4%	0.2%	0.9%	88.8%	0.1%	1.8%	0.2%	0.1%	95.7%	3.4%	0.9%	100.0%	-	-
	白鷹町	2.2%	24.9%	2.1%	0.5%	2.5%	0.3%	54.3%	2.1%	7.1%	3.0%	99.0%	0.6%	0.5%	100.0%	-	-
	飯豊町	7.0%	28.2%	6.1%	1.4%	7.4%	2.6%	2.9%	41.7%	0.8%	0.4%	98.4%	0.7%	1.0%	100.0%	-	-
	置賜地域	42.5%	12.6%	11.9%	7.7%	7.7%	3.4%	4.6%	2.9%	2.5%	1.2%	97.0%	1.1%	1.8%	100.0%	-	-

## (2) 一人あたり町民所得の推移

川西町の一人あたり町民所得は、年々増加傾向にあるものの、山形県平均よりも低水準であるとともに、置賜地域の平均よりも低水準であります。

【一人あたり町民所得の推移】



資料：令和3年度市町村民経済計算（山形県HP）

※市町村民経済計算は、新しい年度の推計結果が公表されると、併せて過去の各年度の数値も遡って改定されるため、平成22年度以前の数値は参考値になります。

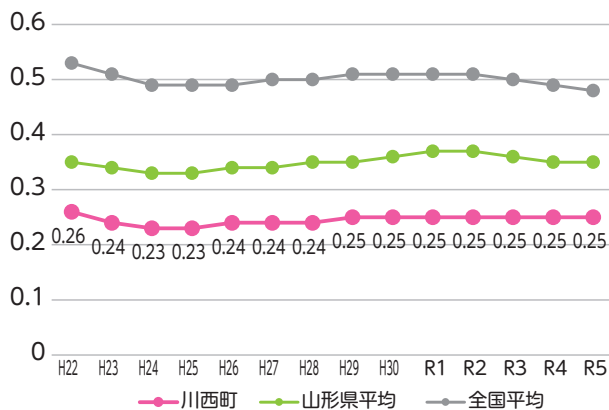
### 3 財政

#### (1) 各種財政指標の分析

町の財政状況を示す主要な財政指標の推移は、次のとおりです。

全ての項目で、全国平均及び県平均より低い結果となっており、厳しい財政状況が続いています。

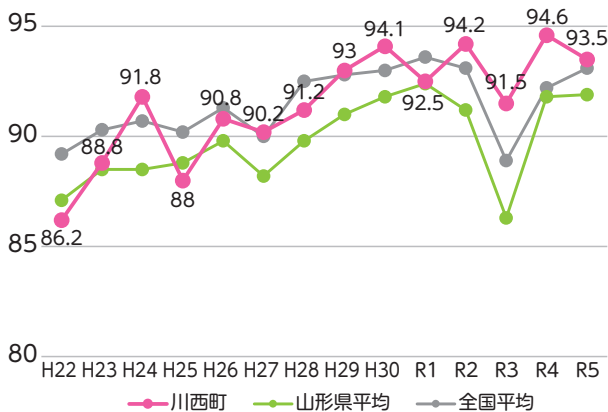
【財政力指数の推移】



財政力指数は、財政基盤の強さを示す指標で、数値が大きいほど財政基盤が強いことを示し、『1』に近いほど財源に余裕があるとされます。

川西町は0.2～0.3の間で推移しており、全国平均や山形県平均と比べ財政基盤が弱い状況です。

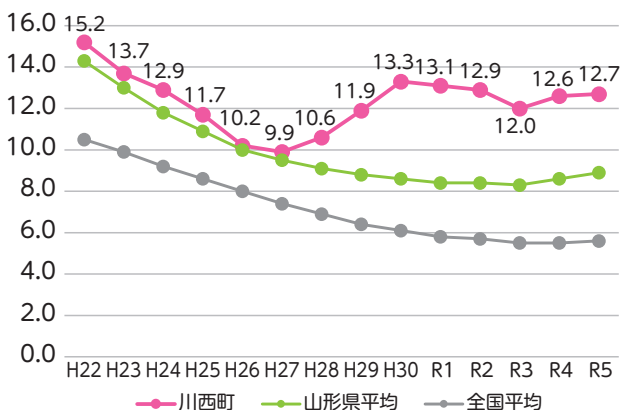
【経常収支比率の推移】



経常収支比率は、財政の弾力性（柔軟性）を示す指標で、低ければ低いほど財政構造に弾力性があり、政策的に使える財源に余裕があることを示しています。

川西町は、全国平均と同水準にありますが、上昇傾向にあります。

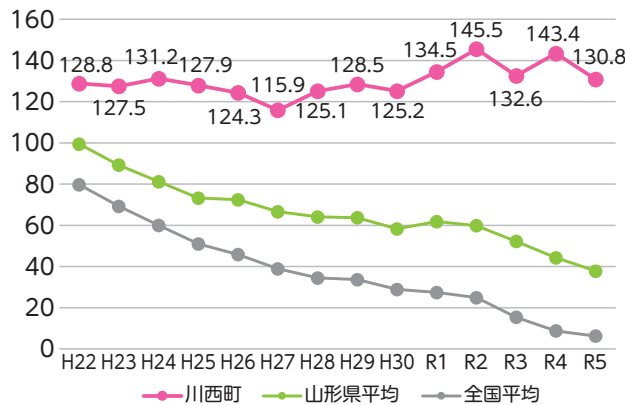
【実質公債費比率の推移】



実質公債費比率は、財政規模に対する負債返済の割合を示すもので、18%を超えると新たな借り入れをするには国や県の許可が必要になり、25%を超えると借り入れが制限されます。

川西町は近年12～13%の間で推移しており、全国平均や山形平均と比べ、高い状況にあります。

【将来負担比率の推移】



将来負担比率は、現在抱えている借入金（地方債）等の負債の大きさを財政規模に対する割合で表し、この数値が高いほど、将来、財政を圧迫する可能性が高いことを示しています。

川西町は全国平均や山形県平均より高い状況にあり、将来財政を圧迫する可能性が非常に高い状況にあります。

資料：県内市町村の財政状況資料集（山形県HP）

財政指標	R5 (2023) 値	山形県内での順位
財政力指数	0.25	24/35
経常収支比率	93.5	27/35
実質公債費比率	12.7	31/35
将来負担比率	130.8	34/35

用語解説

社会増減

特定の地域における住民の転入数と転出数の差。

第一次産業

自然資源を直接利用して作物や資源を生産する産業で、農業、林業、漁業が含まれる。

第二次産業

第一次産業で得られた原材料を加工して利益を生み出す産業で、鉱業、採石業、建設業、製造業、建設業が含まれる。

第三次産業

第一次産業や第二次産業に分類されないサービス業で、商業、金融業、医療、教育、飲食サービス等が含まれる。



Ⅲ

町民の想い



# 1 町民アンケート

## (1) 調査目的及び調査方法

### ①調査目的

本調査は、町民が川西町のまちづくりにどの程度満足し、何を重要と感じているかを把握するとともに、その考えや行動を明らかにし、町政に反映させるための貴重な基礎資料としての活用を目的とします。

### ②調査方法

調査対象（配布数）	18歳以上の町民 2,000人
調査期間	2024年（令和6年）11月21日～12月9日
配布・回収方法	郵送配布・郵送回収及びWEB回答を併用

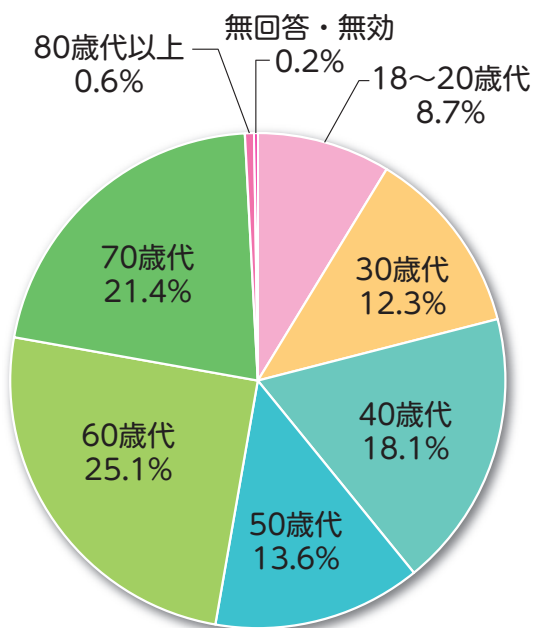
### ③回収状況

有効回答数：838件（有効回答率41.9%）

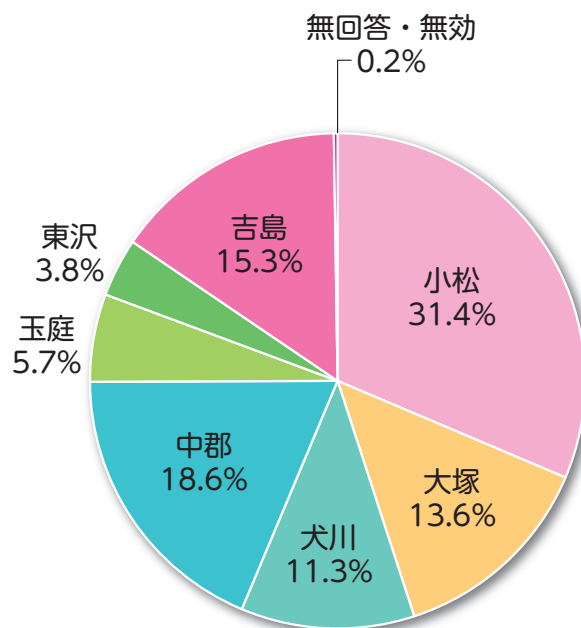
## (2) 回答者について

回答者の年代は、「60歳代」が25%と最も多く、次いで「70歳代」が21%となっています。回答者の住まいは、「小松」が31%と最も多く、次いで「中郡」が19%となっています。

【回答者の年代】



【回答者の居住地】

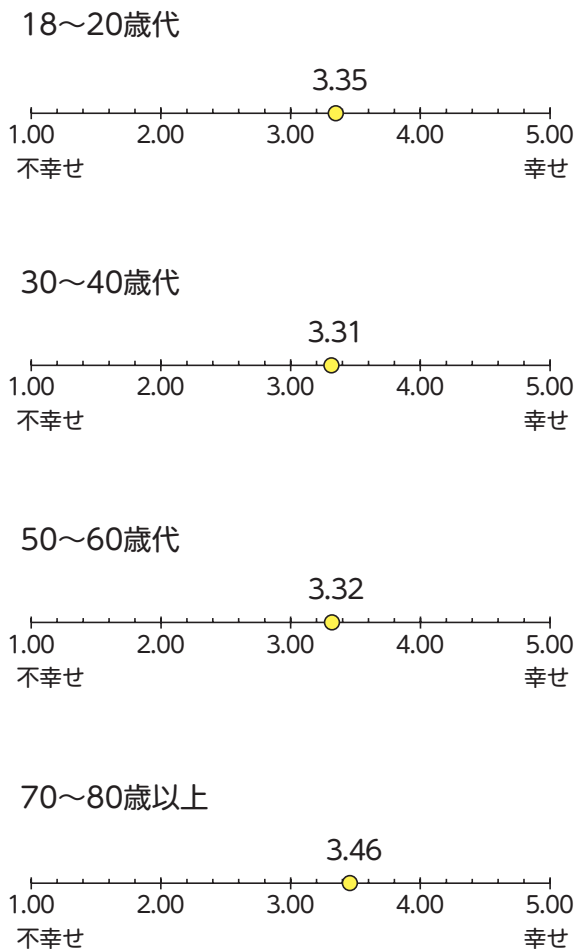


### (3) 幸福度について

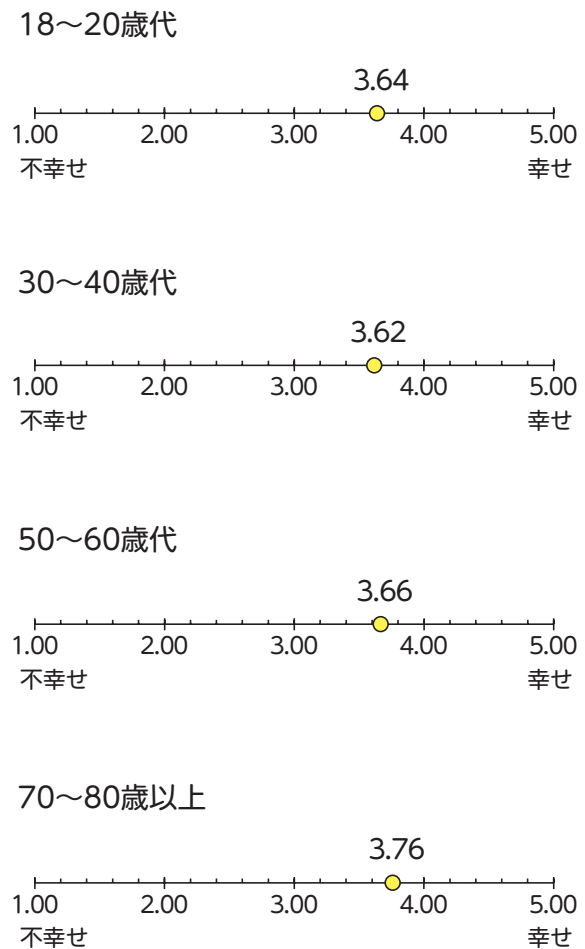
「あなたは、現在どの程度幸せだと感じていますか」という問いに対する年代別の結果をみると、男女ともに70歳代～80歳以上が最も高く、次いで18歳～20歳代となり、30歳代～40歳代が最も低くなっています。男女別の幸福度をみると、どの年代においても女性のほうが男性より幸福度が高くなっています。また、幸福度を測る各項目をみると、若者や女性の活躍に関する幸福度が低い状況です。

#### ① 「あなたは、現在どの程度幸せだと感じていますか」という幸福度を測る質問の結果

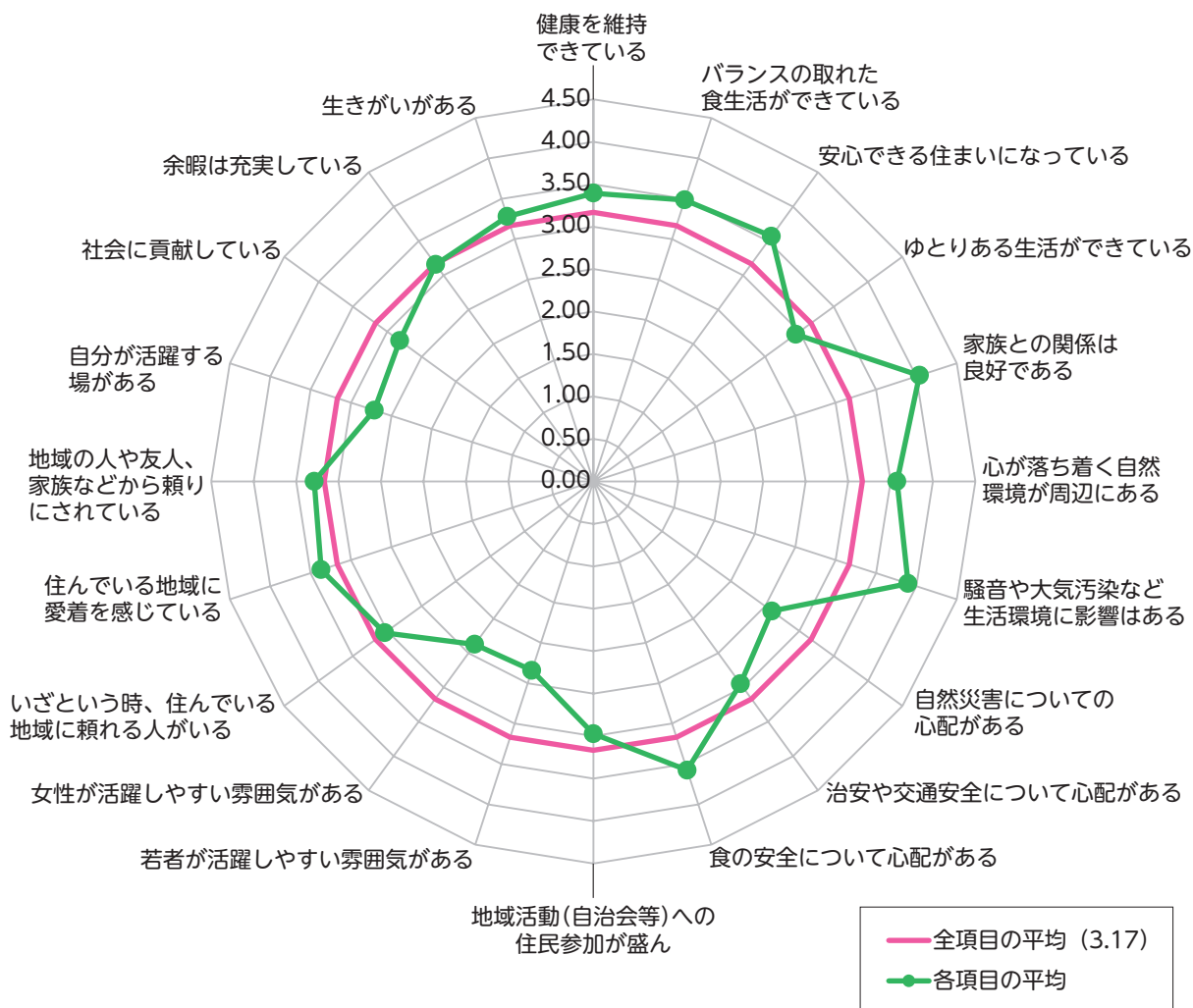
##### 【年代別・性別の幸福度（男性）】



##### 【年代別・性別の幸福度（女性）】



②幸福度を測る各項目の結果



Ⅰ 策定にあたって

Ⅱ 川西町の姿と将来の見通し

Ⅲ 町民の想い

Ⅳ まちづくりの基本理念

Ⅴ 基本構想

Ⅵ 前期基本計画の推進にあたって

Ⅶ 前期基本計画

Ⅷ 人口推計

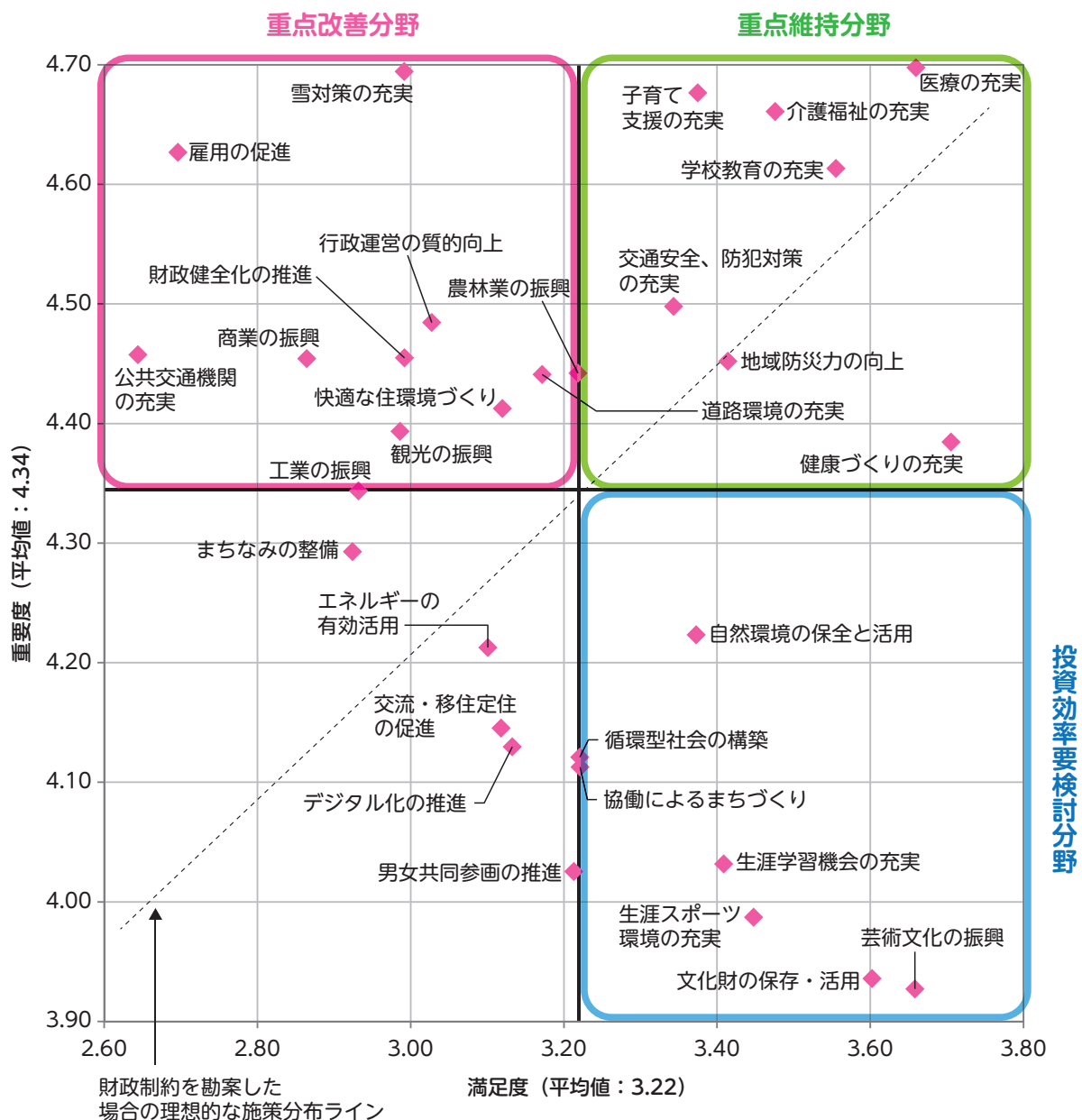
### (4) 施策の満足度と重要度について

町民アンケートの結果をみると、「医療の充実」、「介護福祉の充実」、「学校教育の充実」等の施策分野については、重要度が高くかつ満足度も高い項目となっており、現状の取組の水準を維持しながら今後も重点的に取り組んでいく必要があります。

「雇用の促進」、「雪対策の充実」等の施策分野については、重要度が高いものの、満足度は低水準にあることから、今後は取組の水準を上げながら重点的に取り組んでいくことが求められています。

「芸術文化の振興」、「文化財の保存・活用」等の施策分野については、重要度が低いわりに満足度は相対的に高い水準であることから、財政制約を勘案する場合は施策水準を検討することが考えられます。

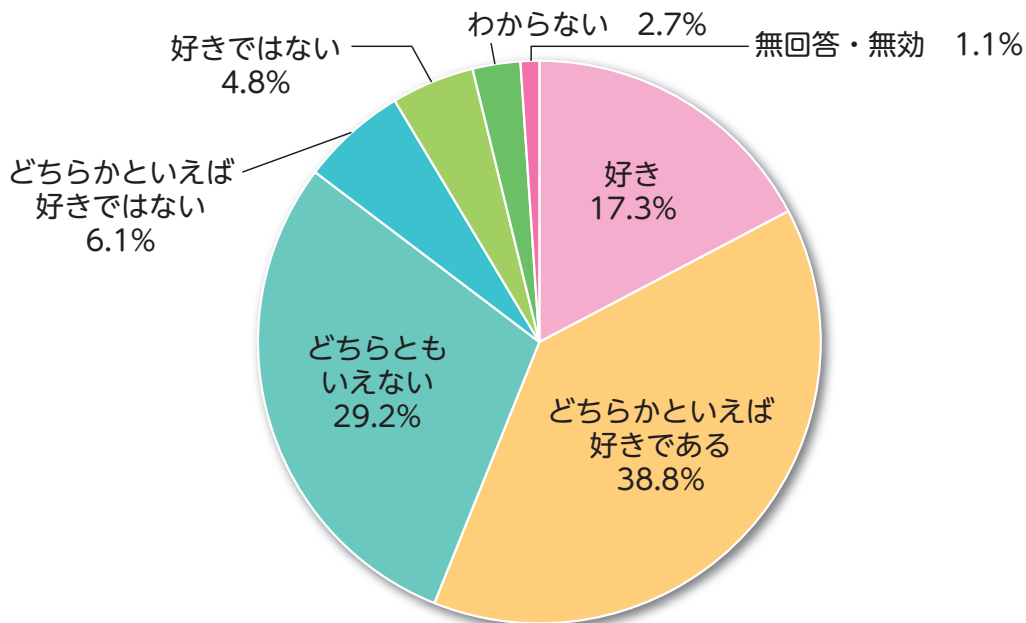
【施策分野の重要度・満足度】



## (5) 川西町への愛着について

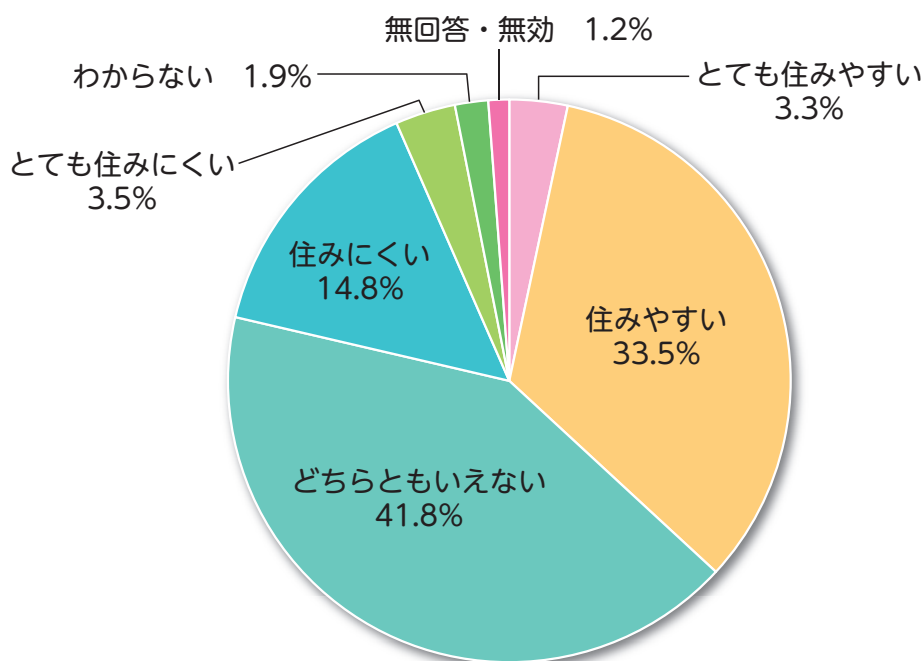
### ①川西町が好きですか

「好き」、「どちらかといえば好きである」を合わせた割合が56%、「好きではない」、「どちらかといえば好きではない」を合わせた割合が11%であり、川西町が好きだと答える割合が多い状況です。



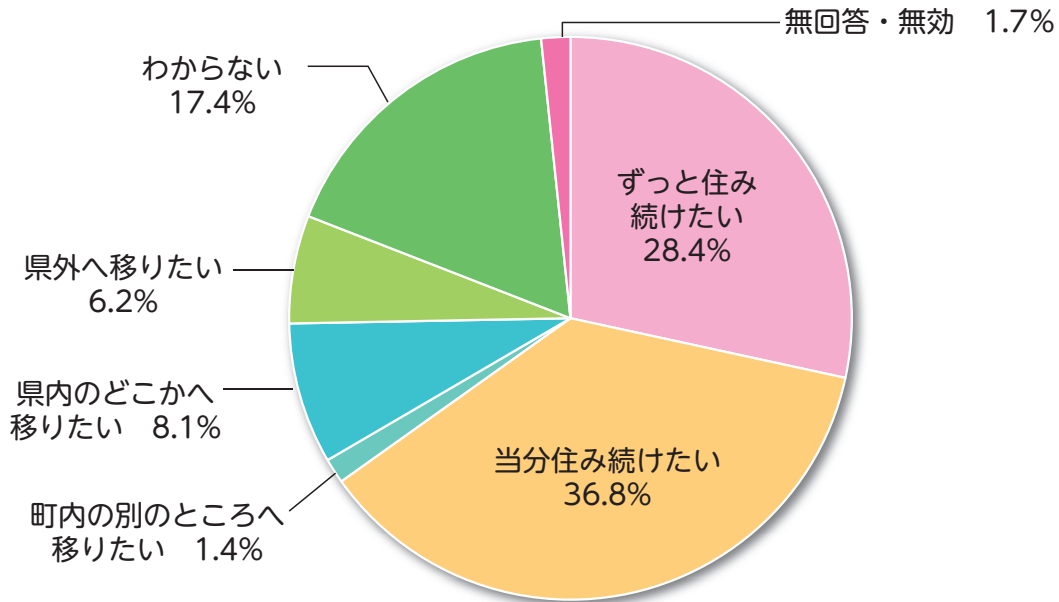
### ②川西町の住みやすさについて教えてください

「とても住みやすい」、「住みやすい」を合わせた割合が37%、「住みにくい」、「とても住みにくい」を合わせた割合が18%であり、住みやすいと答える割合が多い状況です。



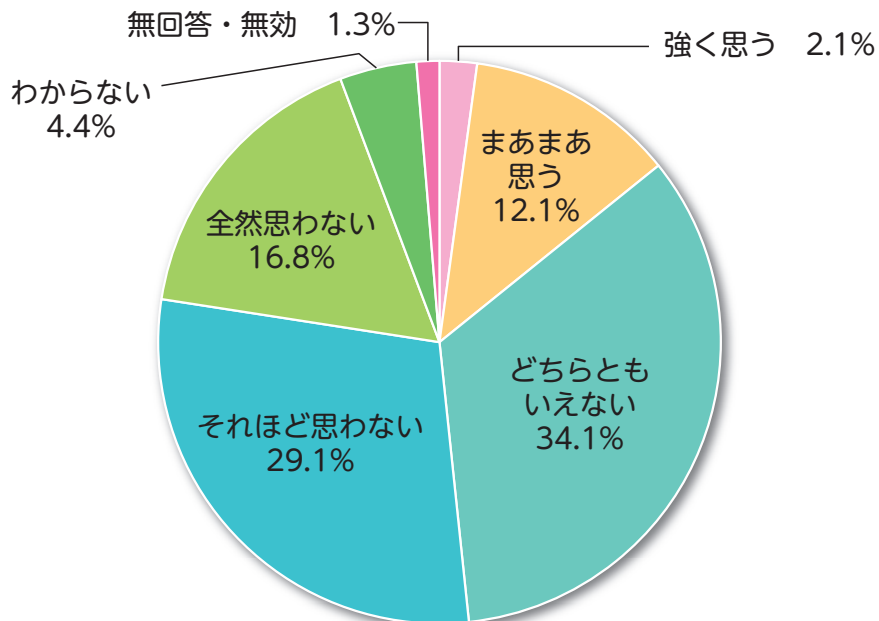
③川西町に住み続けたいと思いますか

「ずっと住み続けたい」、「当分住み続けたい」を合わせた割合が65%、「県内のどこかへ移りたい」、「県外へ移りたい」を合わせた割合が14%であり、住み続けたいと答える割合が多い状況です。



④自分の家族や友人に川西町への移住・定住を勧めたいと思いますか

「強く思う」、「まあまあ思う」を合わせた割合が14%、「それほど思わない」、「全然思わない」を合わせた割合が46%であり、家族や友人に川西町への移住・定住を勧めたいとは思わないと答える割合が多い状況です。



## 2 未来づくりカフェ

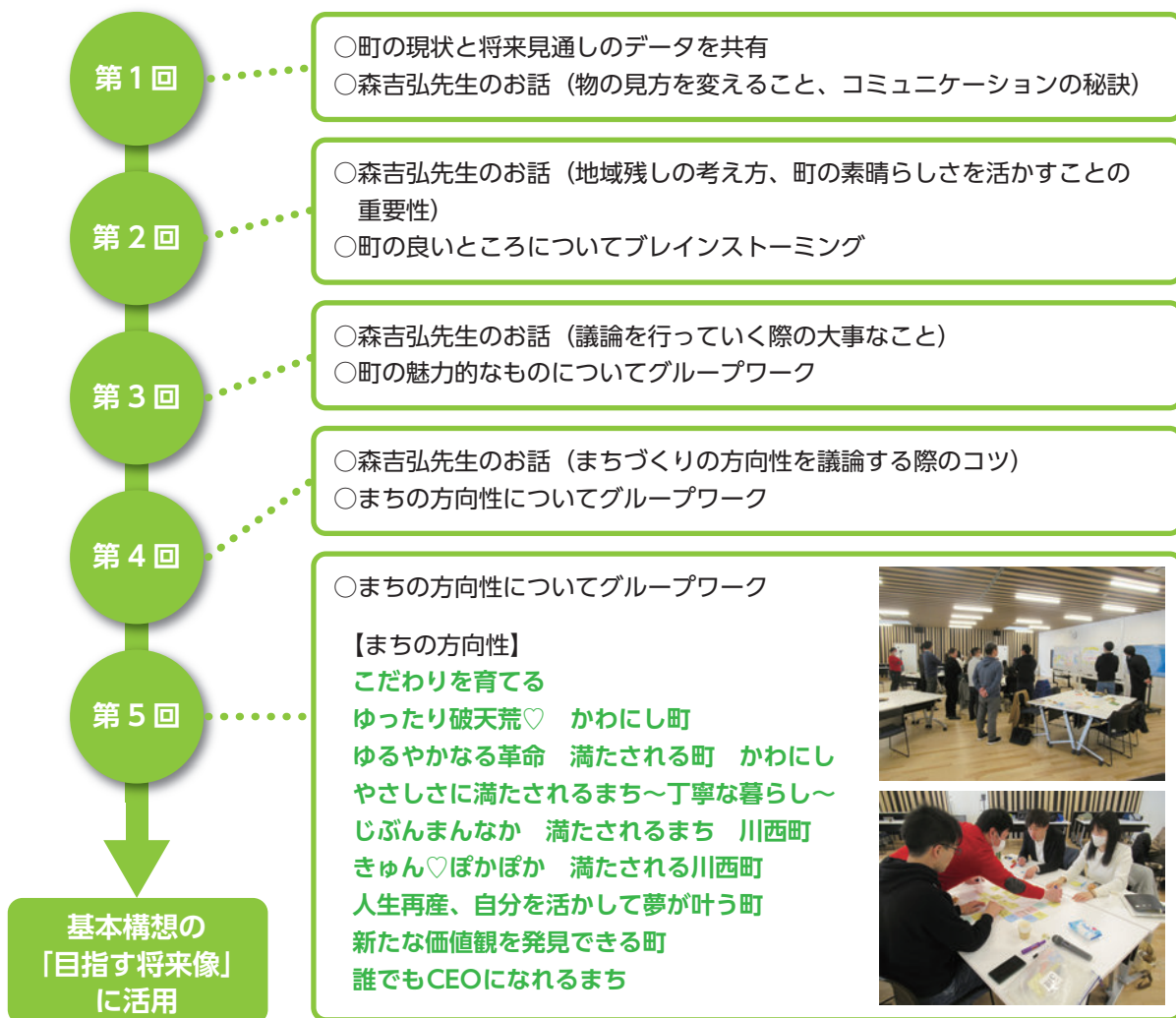
### (1) 実施目的

「未来づくりカフェ」は、第6次総合計画の基本構想で示す町の目指す将来像の参考とするため、「株式会社 morisemi」代表の森吉弘先生の講義を受けながら、10年、15年後の「まちの方向性」を町民のみなさんの目線で描いてもらうため実施しました。

### (2) 参加者

公募により応募いただいた町民 24 名及び役場若手職員 6 名（高校生～60 歳代）

### (3) 経緯と「まちの方向性」に係る意見



### 用語解説

#### ブレインストーミング

自由にアイデアを出し合い、新しい発想や解決策を生み出すための話し合いの方法。

Ⅰ 策定にあたって

Ⅱ 川西町の姿と将来の見通し

Ⅲ 町民の想い

Ⅳ まちづくりの基本理念

Ⅴ 基本構想

Ⅵ 前期基本計画の推進にあたって

Ⅶ 前期基本計画

Ⅷ 人口推計



IV

まちづくりの  
基本理念



川西町の町民憲章においては、地域社会を、生涯を通じて生きがいのある生活の場とするためには、自然と生活が調和したまちを築いていくことが重要と掲げています。このような「緑と愛と丘のあるまち」は、時代の潮流や社会情勢にかかわらず、将来にわたり継承していくことが私たちの使命であります。

これを踏まえ、第6次総合計画では、「緑と愛と丘のあるまち」をまちづくりの基本理念として定め、長期的なまちづくりにおける不変の理念として踏襲していきます。

## 「緑と愛と丘のあるまち」

### 川西町町民憲章

- 一、 自然と生活の調和をはかり美しい町をつくりましょう
- 一、 働きと工夫によって豊かな町をつくりましょう
- 一、 あたたかい心で助け合い楽しい町をつくりましょう
- 一、 きまりを守り、健康で明るい町をつくりましょう
- 一、 教養を高め、ゆとりある文化の町をつくりましょう

### 町民憲章制定の趣旨

わたしたちの地域社会は、生涯を通じて生きがいのある生活の場でなければなりません。

わたしたちは、ふる里の偉大さにめざめ、自然と生活の調和した「緑のまち」「愛のまち」「丘のあるまち」を築いていきましょう。

この継承こそ、わたしたちに課せられた責務であります。

町民一人ひとりの自覚と人間尊重を基調として、1975（昭和50）年川西町合併20周年を記念し、制定されたものです。





基本構想



## 1 目指す将来像

私たちは今、不可逆的な人口減少社会の中で生きています。

生産年齢人口の減少や少子化・高齢化の進行によって、これまで当たり前になり立っていたことが成り立たなくなることも考えられます。地域によっては、既に変革が求められている状況です。

今まで当たり前だったことのすべてが、これからも本当に当たり前なのか、これまでにあるべき姿として描いていたものを目指し続けていいのか、今こそ問い直さなければなりません。

第6次総合計画では、町民一人ひとりの幸福度を高めるため、これまでと力点を変え、若者と女性をはじめ多様な人々一人ひとりの活躍に焦点を当てていきます。同時に、医療・福祉サービスや教育の質等、地域の安定に必要なものを維持するため、限りある資源の効率的な活用を図り、「小さくても豊かな社会」を作り上げていきます。

そのためには、人や地域のつながりの中で、柔軟に発想や行動を変容しながら、誰もが主体的にまちづくりに取り組むことが必要です。それぞれが地域に目を向け、対話や体験を通して「自分ごと」として行動する、その小さな一歩が未来への大きな力になります。

一人ひとりが尊重の気持ちを抱き＜共感＞、互いに応援し合いながら新しい価値を生み出す関係＜共創＞、手を取り支えあって生きる社会＜共生＞を築き、あなたがやりたいことができる、なりたいものになれる、わたしもあなたも満たされていく、未来のかわにしを共に目指しましょう。

# わたしもあなたも満たされるまち

～共に感じ、共に創り、共に生きる～



## 2 将来像を実現するための基本目標

第6次総合計画で目指す将来像の実現に向けて、各分野の基本目標を以下のとおり定めます。  
また、特に重要となる分野横断的な視点として、若者や女性、多様な人々の活躍に関する重点目標を定め、将来像の実現に向けて、積極的に取組を推進していきます。

【基本構想の構成イメージ】

まちづくりの理念

緑と愛と丘のあるまち

第6次川西町総合計画で目指す将来像

わたしもあなたも  
満たされるまち

～共に感じ、共に創り、共に生きる～

重点目標

若者や女性、多様な人々が活躍する  
まちをつくります

基本目標1：生活環境分野

安心して快適に住み続けられるまちをつくります

基本目標2：産業分野

挑戦を支え、産業が発展し、稼げるまちをつくります

基本目標3：保健・医療・福祉分野

共に支えあい、健康に暮らせるまちをつくります

基本目標4：子育て・教育・文化・スポーツ分野

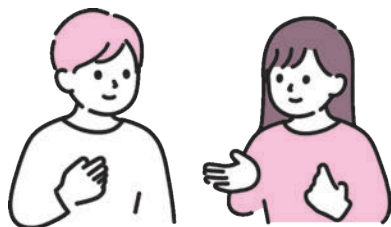
夢を育み、心豊かに学べるまちをつくります

基本目標5：人づくり、地域づくり分野

人を育て、未来につなげるまちをつくります

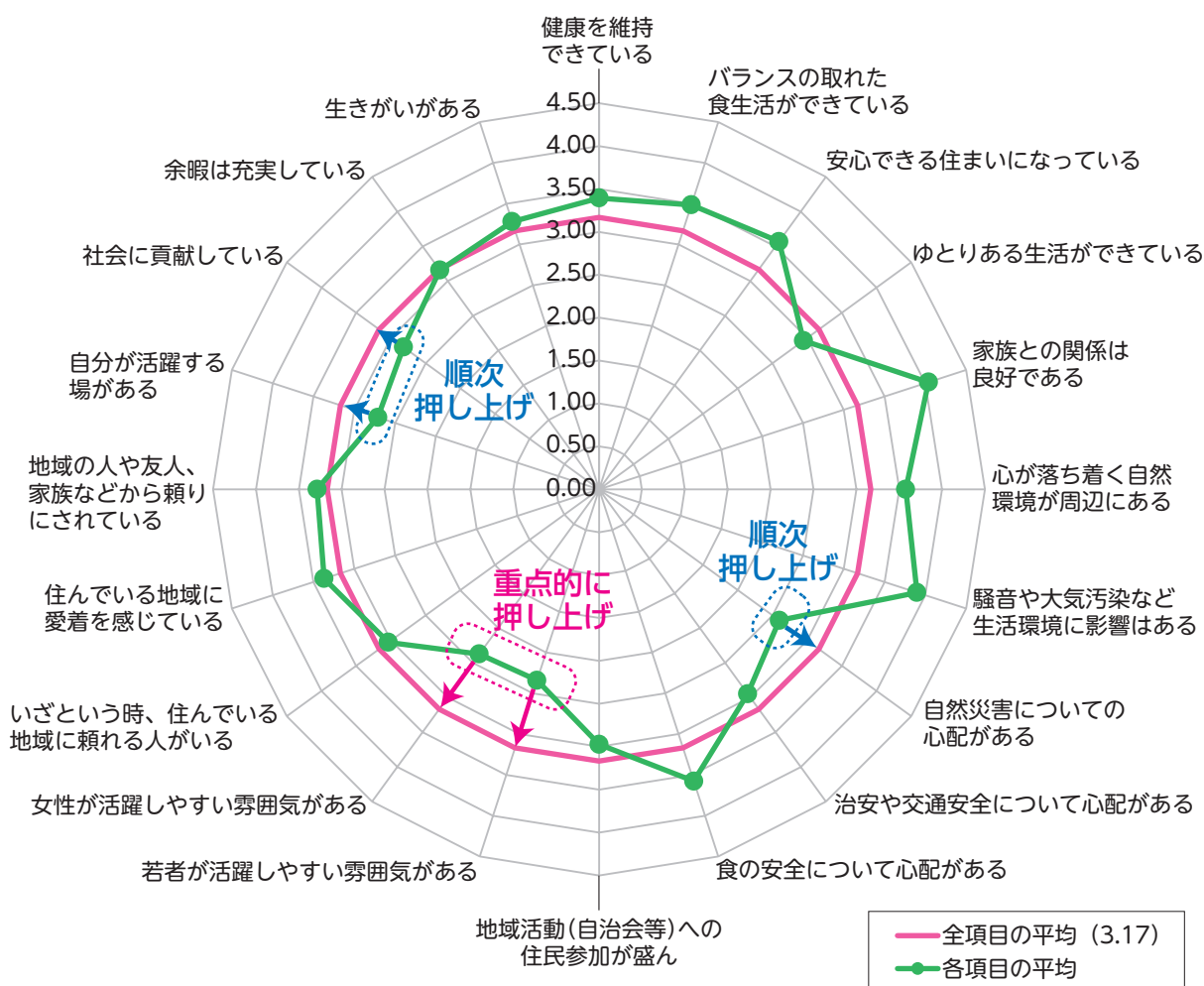
## 重点目標 若者や女性、多様な人々が活躍するまちをつくります

町民全体の幸福度を高めるためには、年齢や性別を問わず、誰もが公平に活躍できる社会を築くことが必要です。川西町では、2024年(令和6年)に実施した町民アンケートの結果から、特に若者や女性の活躍しやすい環境が十分に整っていないことが明らかになりました。この結果を踏まえ、若者や女性が地域活動に積極的に参画できる環境づくりに力を入れます。あわせて、町民一人ひとりが自分の思いを実現できる取組を応援することにより、誰もが活躍し、楽しく、生き生きと暮らせるまちを目指します。



また、みんなが多様性を尊重し合い自己実現できる地域社会に向けて、世代や立場を超えた交流や活動を通じて人と人のつながりを作り深めていくことで、寛容性を育むまちづくりを進めます。

【町民アンケートに基づく項目別幸福度】



## 基本目標 1 安心して快適に住み続けられるまちをつくります

環境（自然環境、生活環境、地球温暖化、循環型社会）

社会基盤（道路、河川、上下水道、都市計画、公共交通、防災・減災、防犯）

人口減少社会、超高齢社会においても、地域公共交通やインフラを適切に整備し、都市機能の維持や持続的な生活サービスの提供を図りながら、高齢者や子どもを含むすべての町民が快適に暮らせるまちを目指します。

また、町民一人ひとりの生命や財産が災害や犯罪から守られるよう、自助、共助、公助により地域防災力、防犯力を高め、誰もが安心して生活できるまちを目指します。



恵まれた自然環境を次世代へ継承していくため、再生可能エネルギー導入やリサイクル活動の推進等により環境に配慮した取組を進め、町民と共に環境への負荷を減らし、資源を大切に活用する循環型の社会を目指します。

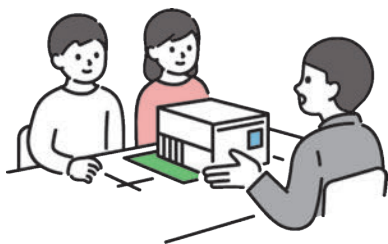


## 基本目標 2 挑戦を支え、産業が発展し、稼げるまちをつくります

農林業、商業、工業、しごと、観光、交流

既存産業の安定的な基盤づくりや新たな可能性を引き出す取組を進め、地域の産業が持続的に発展し、安心して働き、暮らし続けられるまちづくりを推進します。そして、町内における起業等の新たな挑戦に対して、必要な支援を行い、地域の財産や最新の技術を活用した新たな価値を創造する産業づくりを進めます。

これにより、既存の産業と新しい産業がともに発展し、町民一人ひとりが主体的に関わりながら、地域に根ざした「しごと・産業」を共に築き上げ、さらに「稼げるまち」を目指します。



さらに、川西町の人、歴史、文化、地域性を活かし、観光や交流を通じて町外から訪れる人々とのつながりを増やします。あわせて、町外の人々が町民と共に働きたいと思う環境づくり、ふるさと納税や二拠点居住を積極的に促進しながら、川西町に関わる人の輪が広がっていくまちを目指します。

## 基本目標 3 共に支えあい、健康に暮らせるまちをつくります

保健、医療、介護、福祉（地域福祉、障がい福祉、高齢者福祉）

自身の健康に関心を持ち、生涯にわたって心身の健康を保つため、地域医療や健康づくりの取組を充実させ、健康寿命の延伸を目指します。

また、バリアフリーな環境づくりや多様なニーズに対応した支援体制の強化を推進し、障がいや年齢、性別等に関わらず、誰もが住み慣れた地域で自分らしく生き生きと暮らせる社会を目指します。



さらに、世代間を超えて支え合い、協力し合える仕組みづくりを推進し、特に社会的孤立や不安を抱える人々を温かく受け入れる取組を町民と共に進めます。これにより、すべての人が安心して暮らせる地域共生社会を目指します。



## 基本目標 4 夢を育み、心豊かに学べるまちをつくります

子育て、教育、生涯学習、文化、スポーツ

子を授かり、産み育てていく過程において必要となる切れ目のない支援や環境づくりにより、安心して子育てができるまちを目指します。

また、こどもたちが、川西町への郷土愛を持ち、生きる力としなやかな心を育みながら、一人ひとりの夢の実現に向けた力を身に付けられる教育環境づくりを目指します。



さらに、文化芸術やスポーツに親しみ、楽しめるような仕組みづくりを推進しながら、こどもから大人、高齢者に至るまで、あらゆる世代が自主的に学び続け、心豊かに生活を送れるまちを目指します。そして、歴史や伝統文化の継承に取り組むとともに、それらを活かした新たな学びや活動の機会を広げます。



## 基本目標 5 人を育て、未来につなげるまちをつくります

町民参画、地域づくり、移住・定住、男女共同参画、多様性社会、広聴・広報、DX、行政運営、財政運営

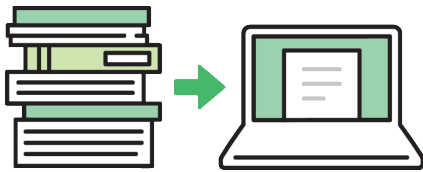
多様な背景を持つすべての町民が共に生き、誰もが平等に社会参画できる取組を推進するとともに、共創によるまちづくりを進め、町民同士が支え合う温かいコミュニティの構築を目指します。

そして、人口減少・少子高齢社会における地域課題を解決するため、移住定住を積極的に推進するとともに、あらゆる分野でDXを推進し、人材を育成しながら、持続可能な地域づくりを進めます。



また、限りある資源を活用して行政サービスを持続的に提供するため、行政職員の人材育成に力を入れるとともに、デジタル技術や民間活力の活用、近隣市町との連携等による事業の省力化を進めます。

さらに、安定した財源の確保、効率的な資源分配を実現し、無駄のない健全で安定した行財政運営を行いながら、未来につなげるまちを目指します。




### 3 目標達成指標

#### (1) 将来像に関する目標達成指標 (KGI)

町民アンケートによると、町民は「家族との関係」や「騒音や大気汚染等の生活環境」、「食の安全」について高い幸福度を感じています。一方、「若者が活躍しやすい雰囲気」や「女性が活躍しやすい雰囲気」に係る幸福度は低水準であり、町民の幸福度を押し下げる要因となっています。

本町の幸福度を押し下げている項目について、幸福度を図る全項目の平均水準である 3.17 まで改善することで、全体の幸福度の底上げを図ります。

**町民幸福度**      3.17(R6) ⇒ 3.32(R17)      **UP!** 

※町民アンケート調査の全項目の平均（5点満点）


#### (2) 重点目標に関する目標達成指標 (KGI)

前述のように、町民の若者や女性の活躍に関する幸福度が低い状況にあります。若者の活躍に関する幸福度は 2.34、女性の活躍に関する幸福度は 2.37 であり、全項目の平均である 3.17 を大きく下回っています。

この2つの指標を全項目の平均と同水準である 3.17 まで引き上げることを目指し、重点目標である「若者や女性、多様な人々が活躍するまちをつくります」の実現に向け、各種取組を推進していきます。

**若者の活躍に関する幸福度**  
2.34(R6) ⇒ 3.17(R17)

**女性の活躍に関する幸福度**  
2.37(R6) ⇒ 3.17(R17)

**UP!** 

※町民アンケート調査の各項目の平均（5点満点）

### (3) 基本目標に関する目標達成指標 (KGI)

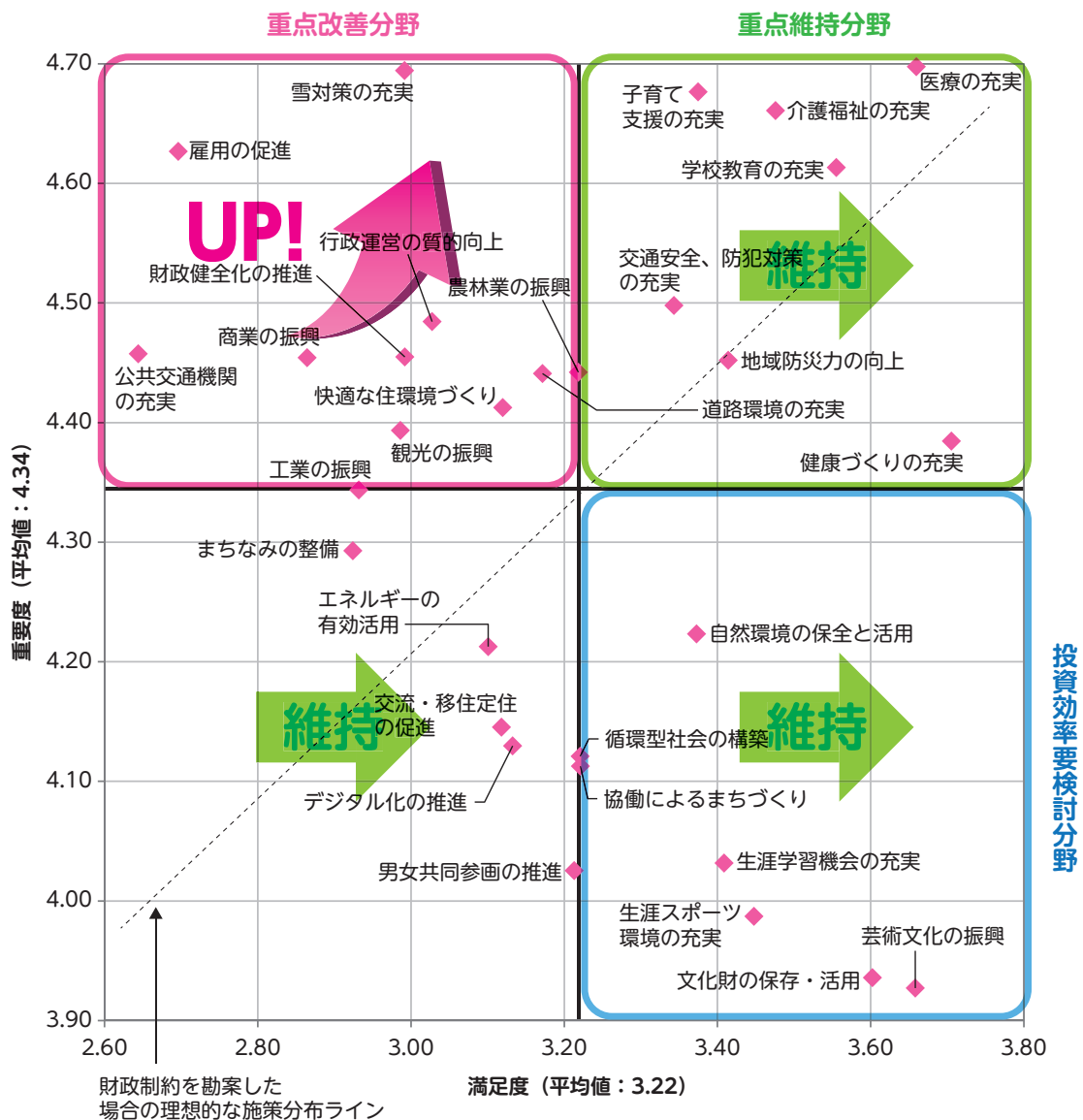
5つの基本目標に関する各種取組の効果が発揮されているかを評価、検証するため、5つの基本目標それぞれに目標達成指標を設定します。目標達成指標は、各種取組の「効果」を測定することが目的であることから、幸福度の向上に大きく関係している各施策分野の満足度を用います。

なお、本指標の達成度は2～3年ごとに町民アンケート等を実施しながら把握するとともに、第6次総合計画の後期基本計画においては、達成状況等を勘案して見直すことがあります。

**重点改善分野の満足度**     3.50 まで向上  
**その他の分野の満足度**     現状値を維持

※町民アンケート調査の「施策分野の重要度・満足度」における各分野の平均  
 ※重要度が高く、満足度が低い重点改善分野に係る目標値は、重点維持分野の概ね中間値である3.50に設定  
 (すなわち重点維持分野並みの満足度に上げることを目標とする)

#### 【施策分野の重要度・満足度 (再掲)】



## 用語解説

### 再生可能エネルギー

太陽光、風力その他非化石エネルギー源のうち、エネルギー源として永続的に利用することができるものと認められるもの。

### 自助・共助・公助

自分の身は自分で守ること（自助）、地域や身近にいる人どうしが助け合うこと（共助）、国や地方公共団体が行う救助、援助、支援（公助）の3つの考え方。

### DX（デジタル・トランスフォーメーション）

デジタル技術を活用して、ビジネスや社会の仕組み、働き方、生活そのものを変革すること。

### 二拠点居住

主な生活拠点とは別の特定の地域に生活拠点を設ける暮らし方。

